

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】H23 (A-Ⅱ) H24 (Ⅰ) H24 (Ⅱ) 【AIMS】H25／北海道大学

■プログラム名

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

---以下、マレーシア・インドネシア・フィリピンに特化した内容を主に記載ください。---

■相手大学・機関（国名も記載ください）

インドネシア：ガジャマダ大学、バンドン工科大学、ボゴール農科大学

■主な活動内容（概要）

ASEAN 地域における人口・活動・資源・環境（PARE: Populations-Activities-Resources-Environments）の負の連環の解決のフロンティアを担う「4つの力（フィールド研究力、多様性容認力、開拓力及び課題解決力）」を持つ人材を育成するため、本学の5大学院（農学院、水産科学院、工学院、環境科学院、情報科学研究科）およびサステナビリティ学教育研究センターと、インドネシア3大学、タイ3大学の6パートナー大学が、協働でプログラムの運営にあたっている。

■プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください）

現状・課題

修士入学後すぐに、学生が円滑に中長期の留学準備が行えるよう、修士課程へ進学が決まった本学の学部4年生に対し、11月にプログラム説明会を行ない、2月～3月にインドネシアあるいはタイのパートナー大学で開講される「PARE ショートプログラム」の受講を促している。

上記に関して、本学以外の大学から本学に進学する学生を、進学前に「ショートプログラム」へ参加させる仕組みづくりが課題である。

成功事例

- ◆ 本学とパートナー6大学とのPAREコンソーシアム間で、コミュニケーションが円滑に進んでいる。具体的には、PAREコンソーシアムの運営のため、各大学の総長が任命する2名の代表で構成する国際運営委員会を設置し、ミッションや責任を明確化した憲章（チャーター）に、全大学が署名した。プログラムの運営と教育の質の保証にかかる重要事項について、国際運営委員会を開催して決定した（平成24年度に2回開催。平成25年度には、インターネットを通じたTV会議方式や書面による協議を含み6回開催した）。
- ◆ 教育の質の保証に関して、成績評価の共同化が進んでいる。具体的には、ファカルティ・デベロプメント（FD）を行ない、コンソーシアム参加全大学から教員が参加し、学生の成績を共同で評価するための手法を学んだ。このことを参考にして、国内および国際ワーキンググループを作り、本プログラムを受講した学生を共同で評価する方法について協議した。また実際に共同評価を行ない、合格した学生に共同修了証を授与した。
- ◆ 研究交流への発展が進んでいる。本プログラムがきっかけとなり、バンドン工科大学との間で、研究交流を目的とした学術交流シンポジウムを開催することとなった（大学間協定校交流事業として本学予算で開催）。